Ｒ４．１０．２８

名古屋市特別活動実践研究会　調査開発部　配布資料

キャリアパスポートの取り組み方

こんにちは！実践研調査開発部です。本部では、今年度も、「特活を頑張ろう」という皆さんに有用な、様々な資料を提供していこうと考えています。そこで今回は、「キャリアパスポートの取り組み方」という資料を準備しました。この資料が、お忙しい中、頑張る皆さんの役に立てば幸いです。

１　キャリア教育の必要性

☆　子どもたちにとって必要な、社会生活や職業人としての資質・能力を育むためには、学校で学ぶことと一般社会との接続を意識し、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育むことを目標としたキャリア教育の視点が重要である。

２　キャリア教育の場

☆　特別活動の学級活動を要とし、総合的な学習の時間や、特別の教科道徳、各教科における学習の機会を生かしつつ、教育活動全体を通じて行うことが求められる。

３　キャリアパスポートとは

☆　小学校から高校までのキャリア教育に関わる活動について、学びのプロセスを児童・生徒自身で記述し、蓄積した記録を振り返ることができるポートフォリオのような教材を指す。

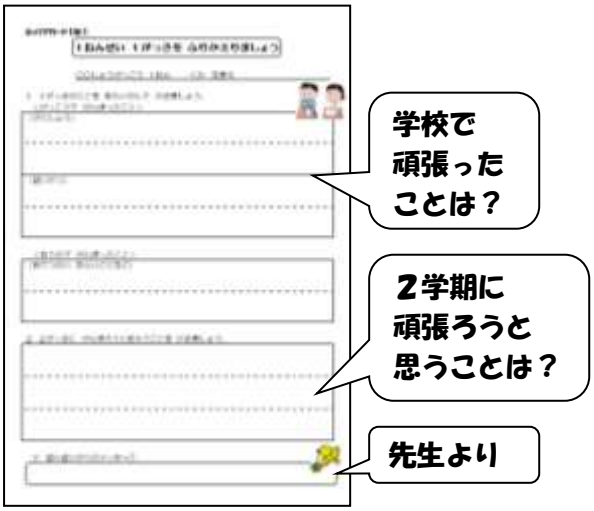
キャリアパスポートと従来のポートフォリオ教材との大きな違いは、小学校から高校まで記録が引き継がれるという点である。しかし、キャリアパスポートには特定の様式がない（自由度が高い）ため、小学校から中学校、中学校から高校への引き継ぎには、教員のサポートが必要となる。例えば、A 小学校と B 小学校の卒業生が C 中学校に進学する場合、A 小学校と B 小学校が相談をしてキャリアパスポートの様式やファイルを揃えるなどの工夫が可能である。

４　小学校における活用状況

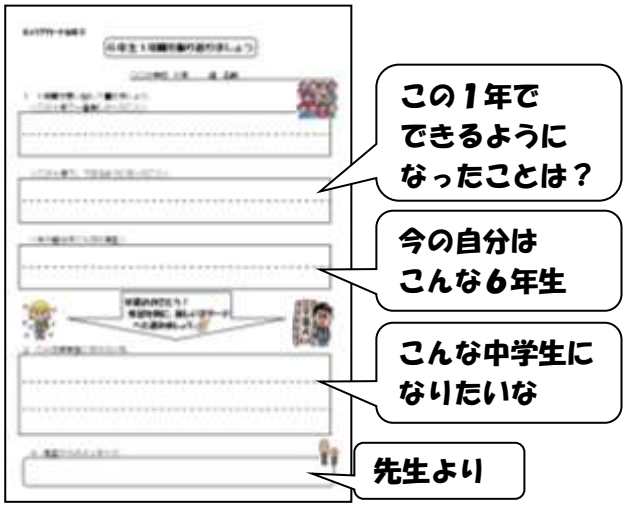
☆　多くの小学校では、４月に教務主任の先生、もしくは、特活主任の先生が「キャリア教育実施計画」などを提案し、各学校のキャリア教育の進め方を示している。その中にはキャリアパスポートの様式や取り組み回数なども含まれている場合が多い。

<A 小学校の例>

○　本校の「キャリアパスポート」とは、後に示す「キャリアカード」を１年間で５回（１学期末、２学期末、学年末、体育的行事、文化的行事）を目安に作成し、累積していくものとする。１年生から取り組み始め、６年生卒業時まで教員間で引き継ぐ。進学・転学の際には、その時点までのカードをファイリングしたものを児童に持たせるようにする。



【１年生１学期末のカード】



【６年生学年末のカード】

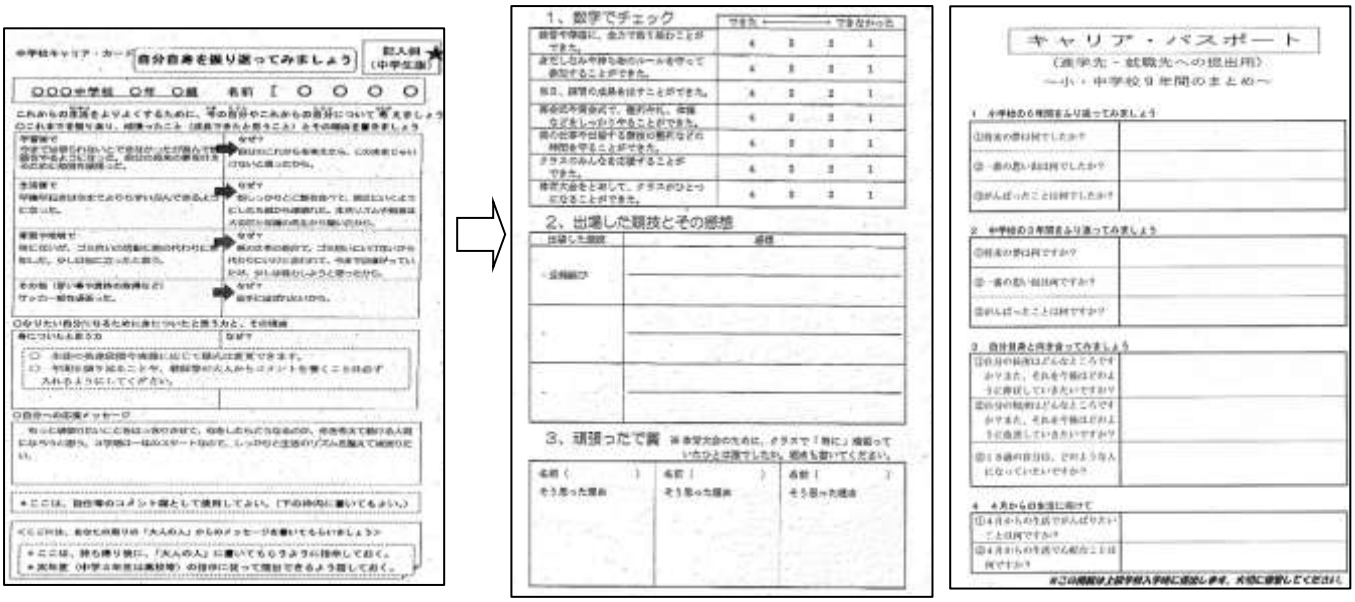
５　中学校における活用状況

☆　中学校では、示されたキャリアパスポート（キャリアカード）例を基に、各学校で独自に作成することが多い。その形式については、全体で統一されている学校もあれば、ある程度の制約・ルールに沿って学年ごとに作成している学校もある。

＜主な制約・ルール＞

- ○　各自で目標を立て、振り返りができるような形式で、年間５枚以内とする。
- ○　サイズはＡ４とする。
- ○　教師や大人からのメッセージが書けるような時間やスペースを確保する。
- ○　「総合ファイル（総合的な学習の時間のワークシート等を綴じるためのファイル）」にポートフォリオのように綴じていく。
- ○　総合のワークシートと区別ができるよう、キャリアシートは色を変えたり、印を付けたりしておく。

【示された例と各学校におけるキャリアカードの例】



【年間計画例】

	１年生	２年生	３年生
１枚目	中学校に入学して	１学期を振り返って	１学期を振り返って
２枚目	１学期を振り返って	稲武野外学習を通して	修学旅行を通して
３枚目	音楽祭を通して	２学期を振り返って	２学期を振り返って
４枚目	２学期を振り返って	職場体験学習を通して	進路学習を通して
５枚目	１年生を振り返って	２年生を振り返って	中学校生活を通して